

海外事情

倫敦ブライトン間自動車道路

一九二五年五月二日

モダーンツランスポート所載

倫敦「ブライトン」(ブライトンは倫敦の海水浴避暑地と云ふべき英國海峽に面する都市である)

間の自動車道路の築造計畫は今や新會社設立して本計畫の遂行を期する爲め必要な議會の協賛を得べき法案の作製を急ぎつゝある。新會社は London and South Coast Motorways Limited と唱えて居る本自動車道路築造のため重大の關係を有する該法案は本期議會に於て衆議院に提出さるる筈である。該法案は既に一九二二年「クリンセス」氏に依て衆議院に建議されたる「コペルトリー」

「マンチエスター」間自動車道路計畫と大體同様である。

本法案の進捗は内閣の交代に依て妨げられたが労働党内

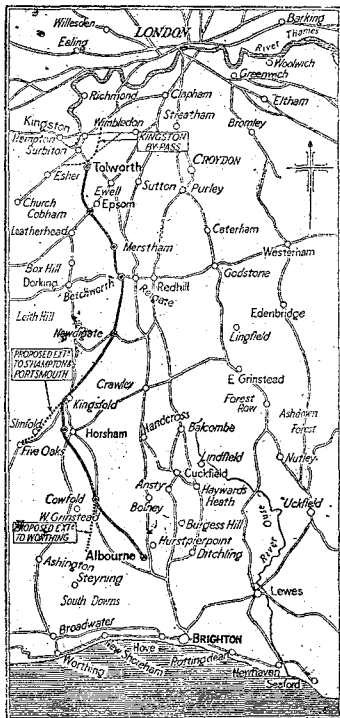
閣の時代再び本法案は「レスリースコット」卿に依て提議せられたけれども不幸にして通過するに至らなかつたが、然しながら其の際各派代表の大凡百名の代議士は舉て本法案を通過せしめ事業の促進を計るべきことを總理大臣へ歎願書を提出し又六十五の地方團體中六十一團體の名に於て本計畫の爲め促進決議したる等如何に本計畫の必要なを窺知することが出来る本法案は單に倫敦「ブライトン」間自動車道路實施の目的の爲め特に議會の通過を計りたるものなれども一度本法案にして法律として發布されたる曉に於ては「コペルトリー」「マンチエスター」間の自動車道路計畫に就いても最早議會の協賛を得る必要なきものと思惟されてゐる。

路線

倫敦「ブライトン」間自動車道路計畫案の路線は第一圖に示す如く大體現在主要幹線の中間を通過し、可成交

構造詳細

通繁激なる地域を避けたれども利用上の効果を削減せざる爲め特に考慮を拂ひ主要なる人口の集中地點には可成接近せんことを努めてゐる。本道路は目下「ストーレー」郡會に於て築造せられつゝある幅員六十呎の「キンクストン」脇道中の「トルウオース」を起點とし「アルポーンヌ」を終點とする計畫である。「アルポーンヌ」より「ブレイトン」に達する脇道の構造は恰も「キングストン」脇道と同様である。本自動車道路築造には二箇年を要する見込であつて其概算工費は二百五十六萬「ポンド」(ポンドは大凡我拾圓) 國若くば地方團體からは何等補助金も下賜金もない筈である。



本自動車道路延長は大凡四十哩であつて鐵道の如く兩側に柵を設ける計畫である。車道幅員は五車線として五十呎となし高速車には中央部緩速車には兩側を充當する。柵間の道路幅は百呎である。路面は塵芥を生ぜざる圓滑なる鋪裝を施し且つ勾配は一「ベツブルコムブ」で只一ヶ所三十二分一勾配ある外は凡て四十分一である。伊太利の「ミラン」「パレス」間自動車道路の如く本計畫道路も亦道路標識其の他交通上完全なる設備をなす筈である。例へば道路の兩側に於て各所に道路工夫の小

屋を設け同時に器具材料の置場とし必要に應じ避難所を兼ねし

める、

自動車

燃料供

給所は

各所に

設けら

れ電話

を架設

し供給

所相互

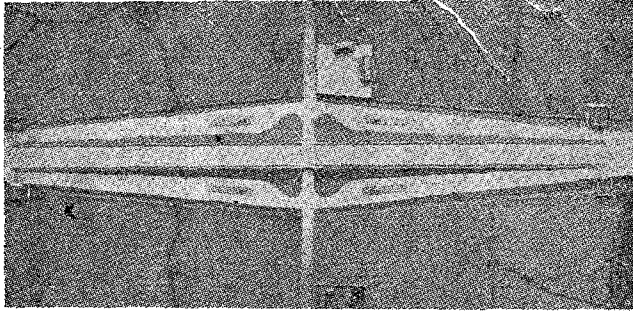
間は勿

論電話

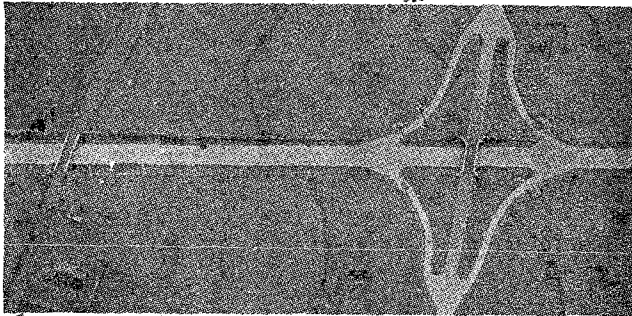
交換局

と連絡

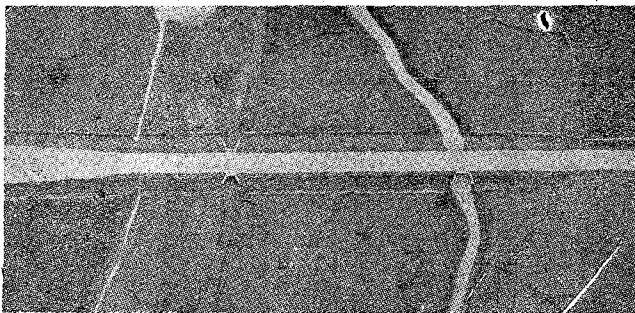
を保つのである。尙自動車修繕車を常に巡回せしめ破損



第 二 圖



第 三 圖



及事故の

場合に應

ずべく考

慮を拂て

居る且つ

第 夜間運行

上の利便

四 を計り種

々の標識

圖 を設けて

ある。

分岐點

及橋梁

本道路の

ため八箇所の分岐點及五十二の橋梁及び百七十の溝橋を要する見込である。二、三、四圖は本道路と他の道路との交叉及分岐方法及重要な道路及河川等の横過方法として提案された一例である。分岐點に關しては交通の流れに不自然ならざる如き點を選定して居ることは注意せねばならぬ。從て各車輛間に全く間隔がない位に交通が稠密で連續して居る場合の外絶體に横過道路より生ずる不便や危険は起り得ない。本道路から他の道路に入らんとする車輛の安全方法としては各分岐點の前方相當の距離に於て注意標を建て、其危険を防で居る。即ち中央部を驅れる高速車が分岐線に入らんとする際は追續する車輛の運轉上何等の不都合を及ぼさざる様外側緩速車道に入ることが出来る。橋梁又は地下道を設けて不必要なる横過道路を避ける方法は圖面に明瞭に示されて居る。必要ある場合は路側に並木を植栽し美趣を添えらると共に本道路利用者に爽快なる旅行を爲さしめる計畫であ

る。又一方交通の安全を阻害する前視を妨ぐ障害物は如何なるものも之を除却される筈である。

圓滑なる道路面

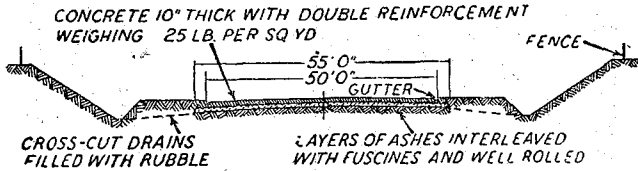
道路の實際的構造法に關しては本計畫の發起人等は三吋の火山灰六吋の搗き固めたる碎石及九吋の鐵筋混凝土を採用することを考へて居る。本舗装は既に「コベントリー、マンチエスター」間の自動車道路を提議された際相當研究された結果五箇年位しか壽命がないと保證されたので其後瀝青「カーベット」舗装が提案された。けれども尙未だ之に關して決定的の意見は纏つて居ない。第五、第六、第七圖に示す横斷面圖は路面の構造に關して最後の決定を爲す場合に於ける三種の案であるが愈々實現する迄には各種舗装に就いて實地耐久試験を施行して其の適否を決定する筈である。

料 金

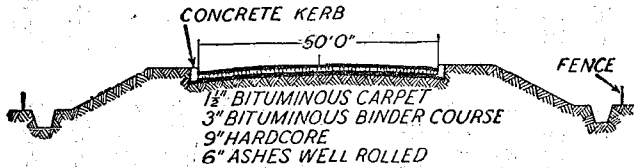
本道路を利用する車輛へ課する料金としては商用自動車は一噸に付き、「ハーシング」(ハーシングは一「ペンス」の四分一即ち大凡我一錢に當る) 乗川自動車は一噸に付き三「ハーシング」自動自轉車は一噸に付き一「ハーシング」もすべき事を提議されて居る。而して其徵收方法は本道路の入口に於て相當料金を拂て切符を交付する組織であるから普通ある如き道路を横過して税關用柵を設くる必要はない。倫敦と南方海岸間の自

海外事情

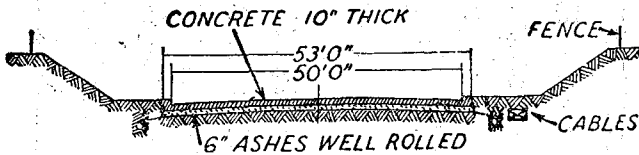
第五圖



第六圖



第七圖



動車道路の最近の交通量を豫想するため伊太利國の自動

車道路の現況を看るに同國技師ブリセリー氏の言に依れば「ミラン」から「バルシエー」支線の交通量は毎日五百臺に達して居り而も收入は豫想以上の好結果を得て居ると報告して居る。

尙「ブリセリー」氏は曰く切符は片道切符及往復切符共出札所及び本社に於て道路の管理者をして取扱しめ且つ同時に町に於ける旅行案内業者にも販賣せしめて居る。回数券は總括して本社又は支店に於てのみ取扱ふこと恰も鐵道や軌道の方法と同様である、旅行季節に於ける「ミ

ラン」から湖水地方への交通量は「コモ」や「ベルギエ」の支線が開通の曉は随分頻繁となるに相違ないと。本計畫に於ても恐らく伊太利に於て採用せられたる方法を採用されるものと信じられて居る。

自動車利用者の利便

自動車利用者から見れば本自動車道を利用する爲に享くる利益は之に支拂ふべき料金に稽へ遙に大きいものであると主張されて居る、圓滑で平坦な路面を驅れば確に自動車の壽命は倍加する、且つタイヤや「ガソリン」の入費は少なくとも半減する利益あるのみならず屈曲部交叉路、村落内又は市内に於て速力を緩めねばならぬ必要は毫も起て來ない。毎日比較的長距離の輸送を爲しても經濟上採算し得る程度の速力を出すことが出来る、車の使用のため生ずる價值低減及び維持修繕費は非常に減少される。車の構造上積載し得る荷重であれば如何なる荷

物でも積む事が出來運轉上不便を感じさせなければ何輛でも附隨車を連結することも出来る。又本道路の出現の爲に天然的制限及人工的制限から實行不可能でない限りは新形式車輛を製出使用することも容易である。本自動車道路には歩行者の通行を禁じ馬車は乗合馬車、又は輕き荷馬車で高速の驅り得るものゝ外許されぬ。

沿道民の利益

沿道民から見た本計畫の利益は次の如きものであると言つて居る。

一 今日重量自動車交通の爲め著しく道路を破損し之が維持修繕の費用として荷重の負擔を餘儀なくされて居るものが本計畫の實現に依て得らるべき料金に依て輕減されること

二 本工事に依り失業者に職を與える事を得るため失業救濟費を輕減し得て一般課稅額を低下し得ること

三 自動車道路の所有者に依て拂はれる料金を以て地方團體の新財源となし得ること

四 道路交通上最も危険多き歩行者並に自轉車乗りや路面に破損を及ぼし易き馬車を本道路より驅除して交通の安全と利便を與へ同時に沿道の地價及建造物の價値を著しく増加すること

本計畫の反對者

言ふ迄もなく此の種大企業には兎角種々の反對意見を聞くものである其の言ふ所を見るに今日自動車交通として道路の特殊設備を爲すことを熱望するは何人も異議のない所であるけれども、此の種道路の構造並に管理に就いては宜しく政府に於てなすべきものである此の反對意見に對して發起人等は斯る事業を國に移す事はさなきだに道路修繕及び主要幹線道路の築造の指揮監督上繁忙を極めつゝある際益々事業の遅延を來す虞ありと言ふて居

る。又議會の反對意見は本自動車道路の如きは根底から鐵道の基礎を覆すものであると云ふのが主なる點であるが之に對して發起人の答辯は自動車道路は鐵道から貨客を他に轉ぜしめるものとは思惟せず鐵道には無關係に現存せる貨客に對して更に敏速なる輸送の目的を達せしめる丈のことであつて自動車道路の有無に依て何等の惡影響は蒙らぬものであると。

經濟的豫想

本企業の經濟上の豫想は倫敦と「ブライトン」間を通行する交通量に大關係を有す、一九二二年八月交通省に依て行はれたる交通調査に依れば「ブライトン」と「ウオーシング」間道路の毎日の交通量は次の如きものである。

自家用車及自動自轉車	一日	三五二七輛
商用車	一日	七一二五輛

倫敦と南方海岸地方間の自動車交通量は年二割八分の割合で増加して居るものと推定されて居る、然し一九二八年に於ける豫想交通量は二割の増加と見積て居るが斯る増加率は無限に續くものではないから、今之の豫想の半分の交通量あるものとし之に乗用自動車一哩四分三「ペンンス」(一ペンンスは大凡我四錢)自動自轉車一哩四分一「ペンンス」商用車正味一哩四分一「ペンンス」の料金を徴收するものとすれば一九二八年の収入は次の如くなる。

家用車	一一〇二五〇「ポンド」
自動自轉車	九一七〇同
商用車	一三二七五〇同
計	二五二二七〇同
維持修繕費	五五〇〇〇同
差引	一九七二七〇同

外國の自動車道路の例

「ミラン」「バルセ」自動車道路には今日已に開通して居るが新計畫として「ミラン」と「ツュリン」間を計畫中である、然し之の新計畫は急行電車と急行自動車道とを併用する意向の様である此の急行電車は一時間九十四哩の速力で走る計畫であるから兩都市間を一時間で達することが出来る勘定であると云ふて居る、斯る計畫は獨り伊太利國のみでなく北米合衆國の紐育から「ハドソン、リーパー、ハイランド」間に昨十二月に丁度是と同じ様な道路が開通して居る、佛國にては巴里と「ニース」間五百哩に特殊の自動車道路を築造する計畫中で成べく直線の道路を作る意向である、獨逸に於ても同様の計畫を考慮中である、即ち「エキラシャヤベル」伯林間で「ツツセルドルフ」「ジースパーク」及「ハノパー」を経過する豫定である。

終